

## 【教育目標】

【知】自ら学び、考え、進んで行動する人

【徳】互いを尊重し、協力する人

【体】心身ともにたくましく健康な人

杉並区立中瀬中学校

下井草4-3-29 TEL 3399-2196

## 『新時代～今しかできないことがある～』

今年度体育大会のスローガン

副校長 安達 紀史

金木犀の甘く爽やかな香りが漂い始めた10月2日（金）、体育大会を無事実施することができました。本来であれば、今年の夏は東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催され世界中の人々が、アスリートが生み出す興奮と感動に浸っていたに違いないはずでしたが・・・新型コロナウイルス(自然の脅威)の存在を改めて感じざるを得ません。そのような中、今年度の体育大会では、感染予防を第一に捉え、生徒・保護者・地域の皆様に多大なるご理解とご協力をいただきましたこと感謝申し上げます。

### ～中瀬中生みんなが輝いた体育大会～

**1年生**にとっては、中学校で初めての行事が体育大会となりました。小学校の時とは違い、自分たちで作る体育大会に少し戸惑いを感じた人もいたと思います。

しかし、真剣に取り組む先輩の姿を見て中瀬中学校の良き伝統

“**一生懸命はかっこいい**”を感じ取ることができたと思います。

**2年生**は、昨年の経験を活かし全力で競技に臨むとともに、積極的に係の仕事・仲間の応援に励む姿に感心しました。作文には、

「**運動は苦手だけれど係の仕事を頑張った**。体育大会ができて

良かった。」と書いてくれた生徒もいました。来年は、君たちがさらに進化させた中瀬中の体育大会を作ってくれるだろうと確信しました。

**3年生**の体育大会を全力で楽しむ姿には感動を覚えました。特に学年種目の杉並舞祭りを踊る表情が一番印象的でした。十分な練習時間を確保することが出来なかったにも関わらず、完成度の高い演技を披露し、後輩たちに「**背中語る**」姿にしばれました。

また、仲間を応援する姿、競技が終わってからの互いに称え合う姿から学年の仲の良さを感じました。10月30日に予定されている音楽発表会でも、すてきな歌声を奏でてくれることを楽しみにしています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のように、コロナ禍でできないことは多くなりました。しかし、「中瀬中みんなが輝ける新時代の体育大会」を作るために、校長を始め先生方も一生懸命に、生徒みんなのアイデアを具現化しようと取り組みました。

「**ピンチをチャンスに!**」 これからも、「**こんな時だからこそ気付けたこと・できること**」に目を向け、新時代の中瀬中学校を一緒に築いていきましょう!



【ピオトープ委員の水まき】



# 生徒の作文より～体育大会 2020～

実行委員長の古田礼奈さん(3B)の言葉で始まった体育大会。昨年度までの様に、クラスで朝集まって学年種目の練習をすることもなく、個人種目はオープン参加、時間も午前中だけでした。

でも、ダンス・十字綱引き・全校応援・部活対抗リレー・色別対抗リレーなど、生徒の思いを生かした、密度の濃い時間となりました。

## 開会宣言 (実行委員長)

『新時代〜今しかできないことがある〜』というスローガンのもとで、今年の体育大会が始まります。皆さんの中には、今日を迎えたくなかった人、練習が辛かったという人もたくさんいると思います。

私の思う最高の体育大会は、運動が好きだったり、得意な人だけが楽しむのではなく、苦手でも好きじゃなくても 楽しめる体育大会です。

今回の体育大会は、例年とは違う、だからこそ、今だからできることを楽しみましょう。

そして三年生。これが最後の体育大会となり、これから行う行事も、全て最後のものになります。その一回一回に、全力で、悔いの無いよう取り組みましょう。

## 『輝きを支える』 2A 伊藤 未菜

「テープ!」「これ押さえて!」私は保健係としてこの体育大会をがんばることができたと思う。

一年半前、昨年の体育大会は骨折で欠場していた。もともと運動が得意な方ではなかったし、「三年生の熱い思い」があるということが全くわからなかった。だから今年も個人種目には出なかった。しかし、この体育大会が終わって、確かに三年生にはその「思い」があることがわかった。

救護テントには、様々な怪我人がやって来る。太ももを痛めた人や大きなすり傷がある人など。私が心を動かされたのは、テントに来た三年生の行動だ。ある三年生は個人種目だけがをしてテントに来た。太ももを痛めていた。私なり、もう休んで体育大会に出ないことを選択するだろう。しかし、その三年生は、ダンスにも、全員リレーにも、さらには選抜リレーまで出場していた。

またある三年生は、けがをしてテントに来た。痛そうだったので上田先生が「休んだ方が良いと思うけど、悔いはない?」と聞いた。「ありまくりですよ。」「その三年生は答えた。そして綱引きに出場した。私はすごいと思った。救護テントから見る選手の「一生懸命」は、本当にカッコよかった。

来年も、私は保健係をしたい。来年も一生懸命がんばる選手たちを支えたい。そして、みんなに輝いてもらいたい。



<用具係も活躍しました>

## 『本当に本気でやるということ』

私は、運動会が苦手で、始めは全力ではなかった。だけど、今回の体育大会は小学校の時の運動会よりも今自分ができる最高の実力を出したと胸を張って言える。

理由の一つは、個人一人一人で行うのではなく、皆で、チーム一丸になって行うものだということだ。小学校の時と変わらぬと思うかもしれない。私も始めはそう思っていたが、みんなの本気度、団結力が違った。

一年生にとっては学校全体で行う最初の行事だ。朝練をやったり、リレーの順番を話し合ったり、みんな積極的だった。気付けば早く練習したいと、私もやる気になっていた。こんなに本気になったのもクラス皆のおかげだ。

2つ目は係の人がいたからだ。今回私は係に入っていないが、生徒席で応援することしかできなかった。そこで見たのは、消毒係の人が消毒したり、用具係の人が次の競技の準備をしたりと必死に頑張っている姿だった。

係が頑張っているから大きな行事が成功する。裏方のありがたさを感じた。もちろん、応援している人も頑張っていることに貢献している、様々な人々がそれぞれの役割を果たすことで、どんな仕事にも意味、そして価値があることを知った。だからこそ私も頑張れた。

私は、苦手なことでもチーム一丸となって取り組めば何でも全力になるということや裏方のありがたさを知った。『苦手な人でも楽しめる』というのはこういうことだと感じた。

全力で頑張ることはあたりまえだと思いが、あたりまえを守ることで色々なことに全力になれると思うし、団結できると思う。だからこそこれから生かしたいと思っし今回のことを頭にずっと入れておきたい。

1A 宮澤 紗希

今年も委員会ごとに出発(実行委員)・決審(学代)・監察(給食)・計時(規律)・記録(保健男子)・放送(生徒会役員)・用具(美化、保健男子)・保健(保健女子)などの係を分担しました。3年前から始まったピオトープ委員会による『水まき』係も活躍しました。去年までと違うのは招集係がなくなり自分で集合すること、そして新しく『消毒』係(保健女子・図書女子)ができたことです。

消毒係は、後半の全員リレー、綱引きなどでの団体競技、選抜リレーでは、ずっとトラックにいて、バトンや綱など、色々な人が触れる用具の消毒を行っていました。



<バトンタッチの直後にバトンを受け取り消毒、次の走者に渡す。>

『後悔』 2C 梅津 蒼大

僕は今回の体育大会、個人種目は出場しなかった。…だが今は出場しなかったことで後悔している。

今年の2月ごろに流行したコロナウイルス。それがまさかこんなことになるとは思っていなかった。いろいろな行事がなくなり、今回の体育大会も危うかった。そんな中で、開催された体育大会だったが、去年と比べてどこことなく気が入らなかった。

全員リレーのバトンパスの代わりにバトンタッチになったが、個人的にはそれはとても物足りなかった。クラスの全員が一本のバトンをつないでいくことに魅力を感じていたが、一回一回消毒をしていかなくははいけなくなりましたので、少し残念だと思っていた。そして、あまりやる気がないまま、個人種目に出場しないと書いてしまった。

体育大会当日、僕は衝撃を受けた。出たい人が出るというのは、僕はつきり足の速い人が出るものだと勘違いしていたことに気づき、何だかとても悔しくなった。自分も出ておけばよかったと思った。運動が得意ではない人が一生懸命走っている姿を見て、自分が情けなく思えた。

全員リレーも同じだ。最初C組は遅かったが普段うるさい奴もみんなで作戦を立てて走ること、とても魅力を感じることができた。結果2位になることができた。とてもうれしかった。だが、大会後は後悔してしまった。来年はこのような大会ではないかもしれないけれど、悔いのないようにしたい。

『ダメでも頑張る』 1D 古賀 晴子

体育大会当日。ついにリレーが始まる。私の走る順番になった。どうしよう、抜かされたら。胸がドキドキしてきた。カチン。バトンとバトンがあたったと同時に私は全力で走った。その時、「がんばれ！」と声が聞こえた。応援してくれている。頑張らなければ。すると、また他のクラスが追い上げてる。次の選手はもうすぐ。バトンの持った手をいきよよく伸ばした。結果は4位であった。悔しかった。でも楽しかった。私は「がんばれ」の一声で頑張れた。私はみんなやる協力の意味をこの体育大会で学んだ。中学一年生での体育大会を私は忘れない。

『史上最高の体育大会』 2D 佐藤 一真

今年の体育大会の良かったことは、オープン参加だと思えます。自分が本に出場したい種目に出ることができたからです。僕は、念願の1500M走に出場できました。走り終わって達成感があり、本当に楽しかったです。個人種目に出場しなかった人も全力で応援していて、雰囲気よかったです。

…今年、できないと思われていた体育大会ができて、本当に奇跡だと思います。今年の体育大会は、人と人の距離はありました、みんなの心の距離は例年よりも縮まったのではないかと思います。本当に「最高の体育大会でした。」

1500M走に出ようと思ったのは、小学生の頃、走るのが苦手だったので、中学生になったら一生懸命頑張ろうと心に決めていたからです。

…スタートした。前に出ようとしたが、4、5周になると疲れが出てきた。結局、3年生には2周差をつけられ、1年のトップから1周差。記録は6分24秒、自己ベストではなかった。だけど緊張感で楽しく全力で競技に取り組めたことが一番大切だと感じた。

この体育大会で学べたことは、何よりも楽しく全力でやるのが大切だということだ。また、次回ではこの「緊張」を力に変えて、楽しく全力で自己ベストを越えたい。 1D 館野 安輝



<熱戦が繰り広げられた 1500m 走>

今年の大会の大きな特徴は、個人種目が自由参加になったことです。「周りが出るから、私も出る」とか「周りあまり出てないから出るのをやめる」の様に、周囲によって決めるのではなく「自分の記録に挑戦」「大会記録に挑戦」「個人種目にはエントリーしないけれど係や応援で大会を支える」ことを自分で選び、自分で決めることを目指しました。

人に言われて、周りに合わせて、あるいは、しかたなくやるのではなく、自分で考え選び挑戦する、これからの時代になくはない姿勢です。

…過去二年間、体育大会で活躍どころか、自分のせいで負けた、と思っていた。今年は、運動が得意な人が輝けるよう手伝いをしようと思っていた。しかし当日会場には、誰よりも声を張り上げ応援している自分がいた。「体育大会は誰でも輝くことができる、輝く場所である。」 3D 小森 悠太

…当日私は驚いた。想像していたよりずっと楽しくて、勝負のドキドキ感も味わえた。言葉に表せない程だった。時間なんて関係なくて、内容も濃く達成感もあった。…「今を楽しめるかどうかは、環境ではなく、自分が今の状況の中でどう行動するかで決まる。」 3C 垣花 音乃夏

…全員リレーは最下位だったが、誰も不満を口にしなかった。…これは勝利より大事で優先すべきものがあることに、皆が気付けたことの暗示だと思う。努力してもどうにもならないこともあるし、勝利を優先する場合も、この先たくさん出会うだろう。でも今回の経験は、その時の支えになると信じている。 3B 岡田 啓斗

…私は係の仕事も頑張りました。色々な競技で使った道具を消毒するのは、とても大変でした。でもこの係があるからこそ成り立つ大会と思いい、やりがいを感じて取り組みました。…この状況だからこそ自分のできることを考えられたし、今まで「普通」にできていたことに改めて感謝することができました。… 3A 浅井 瑠理子

：普段はあまり気付けなかった、人の優しさが感じられる体育大会だった。一・二年の頃分かった『勝利よりも大切なもの』に、今年は気付けた。

この体育大会で、このクラスで、この学年で良かったと心の底から思った。放課後集まってたくさん考えてくれた実行委員、生徒会役員に感謝。

3D 石山 晴菜

：個人競技が選んで参加という形になったことで、より一層応援の力が強くなったと思いました。得点勝負でないのに一所懸命応援してくれている姿に、感銘を受けました。

：「得点を競わなくても、応援によって個人の頑張り引き出されていく」と考えさせられました。3C 榎本 晃隆

僕は授業で学んだハードルに面白さを感じ、最後の体育大会で思い切って「初めての挑戦」をしました。

朝練にも、同じ50MHの選手の前君と参加し、フォームやコツを教えてもらい、自分でも速くなったと感じました。

結果は勝っていませんでしたが、挑戦し練習したことは、自分を大きく成長させたと思いました。3B 丸尾 幸裕

：競技では「色別リレー」が印象に残っています。クラス代表として、最高学年としてのプレッシャーがありました。

そんな中、1年生のペアのバトンがうまくつながらなかった時、2年生の女子がアドバイスをしているのを見て、自分一人で戦っているのではないと実感しました。3A 池尻 大和



<1・2年生の「EZ DO DANCERCIZE」>

：勝つ喜びは味わえなかった。でも「応援してもらえ喜び」皆で共にできる楽しさ」そして「負けても励まし合える仲間がいること」これは負けて初めて経験できるものだった。

得意な人が苦手な人に教える光景はよく見た。でも今年は苦手な人が自分から教えてもらう光景が見えた。

苦手でも体育大会を嫌だと思わない環境。そんなクラスの一人として参加できてとても嬉しかった。

私にとっては今年の体育大会は、良い意味で少し違った。3B 渡邊 紗和

：三年間同じ係だったの、あまり頼りにならないかもしれないけど、後輩に伝えられたらと思っています。

着順判定は責任ある仕事で、準備でもまとめられアドバイスもできました。

：2年生も、中瀬中の体育大会の仕事、後輩へと受け継いでいってほしいと思っています。3A 山内 昊子

：私は走るのが苦手、三人四脚しか出たことがなかった。しかし今年は気持ちを切り替え50Mを走った。最後に今までやらなかった自分を切り替えようと思ったのだ。：ダンスでも選抜ダンスに挑戦した。私にとっては新しい挑戦だった。

：今までと違う体育大会。しかしクラスの間も深まり、私も成長できた。学校にもクラスにも私自身にも、新時代が訪れたように感じた。3D 三田 怜奈

：三年間で初めてすごく緊張した。新しいことへの不安があったけど、それを全て消してくれる、クラスの暖かさを感じた最初の体育大会でした。

：クラス皆の心を一つにして勝利を目指したり、同じ色や、例え違う色でも応援するような熱い思いになったりする。ことは、三年間過ごしてきたから感じられる感情なんだろうなと思った。

素敵な体育大会に参加できてとても幸せでした。3D 齊藤 彩乃



<代表生徒による全校応援>

<個人種目1位の紹介> 長距離は男子1500m、女子1000m、◎新記録 ○タイ記録

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子	3年男子	3年女子
50m	長岡千広C◎ 2位 菊池健太B◎	宮崎凜夏B	小山流聖B○ 大恵創一朗D○	高江洲サヤサ フリーヤD	片山遼太郎B◎	村木沙良D
100m	尾澤樹C	川上心愛A	関口瑛貴C	古川菜々美B	鎌田羽琉C	耕野瑠杏A
長距離	國村悠真C	今里菜央A◎	堀内瑠之介B		堀川裕生D◎	住川柚月C
50mH	種元煌士A◎	笹村ひなのD◎	大木亮太D	福井奈少D	竹内優気A	福富美羽D

最後は実行委員長の古田礼奈さん(3B)の作文です。

今回の体育大会は生徒が中心となり、「伝統だから行う」のではなく「1人1人の意志で行われたもの」となりました。私はその中で実行委員、そして委員長として仕事を務めさせていただきました。

私の考えたスローガン「新時代」には「例年」とは全く違い、「新しい時代をスタートしたい」という意味が込められています。このスローガンのように今回の体育大会は新しく、本当に新時代だったと思います。

私のクラスは学年で優勝、準優勝を出来たわけではありませんでしたが、団体種目目の円陣や色別対抗リレーに出る前の応援の様子は一生忘れません。このクラスの実行委員、この学年の実行委員になれて良かったです。ありがとうございました。